

文化庁メディア芸術祭 京都展 **パラレルワールド 京都**

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL in KYOTO "PARALLEL WORLD, KYOTO"

P A R \triangle L L E L

W O R L D

メディア芸術って何？
パラレル感覚で
楽しむフェスティバル!!

What is Media art?
The parallel world!!

K Y O T O

2011.10.29 sat – 11.23 wed

※会場により、それぞれ会期が異なります

Different duration for each exhibition.

文化庁メディア芸術祭京都展
「パラレルワールド京都」について

メディア芸術は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガと様々なジャンルを指しつつも、一貫して私たちの生きている“今”という時代を表現しています。文化庁メディア芸術祭は、それらの優れたメディア芸術に対し、顕彰と鑑賞の機会の提供を目的に1997年度より開催してきました。本展では、「パラレルワールド京都」をテーマにこれらの受賞作品を含めた多彩なメディア芸術の今日を京都、広くは関西にて紹介します。

テーマについて

「パラレルワールド」は、ある世界と並行して存在する別の世界、並行世界と訳されることの多い言葉です。今回のメディア芸術祭京都展では、「パラレルワールド京都」をテーマにあげています。京都は、歴史的な時間や文化的な影響が重なり合う「パラレル」な都市であると言えます。多くの異なった世界が重なり合い、互いに矛盾せず並行して存在すること。それは、豊かさとしなやかさを育み都市の魅力へとつながっています。またインターネットやパソコン、携帯電話などテクノロジーの発展によって、異なるリアリティの層をシフトしながら生きることが容易になった現代において、私たちは自分自身さえ複数の自己の重なり合いであると感じているのではないのでしょうか。それは、新しい時代にふさわしい、しなやかな現実感覚であると言えるでしょう。メディア芸術祭京都展では、テクノロジーの発展とともに可能になった新しい発想や表現を基にした作品、また逆にテクノロジーの発展によって不要になったり忘れ去られようとしているモノやコトを意識させる作品など多様なメディア芸術を展示・上映します。それらを体験することで、メディア芸術の現在、そして私たち自身のありようを考える機会となるでしょう。

お申し込み

事前申し込みが必要なイベントおよび上映会へのご参加を希望される方は、文化庁メディア芸術祭京都展「パラレルワールド京都」公式ウェブサイトからお申し込み下さい。※一回のお申し込みで二人様まで受付致します。

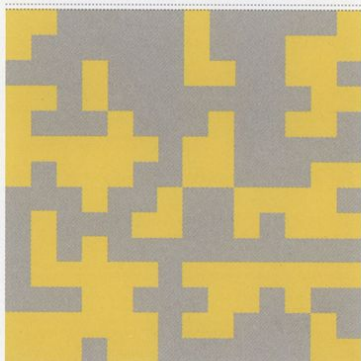
公式ウェブサイト OFFICIAL WEBSITE
<http://plaza.bunka.go.jp/kyoto>

ABOUT THE EXHIBITION

Media art consistently represents our contemporary life while incorporating the genres of art, entertainment, animation, and Manga among others. Japan Media Art Festival, launched in 1997, aims to reward excellent media artwork and to provide a platform for people to view this work. “Parallel World, Kyoto” introduces a wide range of media art including the festival’s award-winning works to Kyoto + Kansai audiences.

THEME

“Parallel world” is a term often used to describe another world existing in parallel with this world, and this is the theme for this year’s Media Art Festival in Kyoto. Kyoto is a parallel city where historical time and cultural influence coincide. The idea that various worlds crossover and coexist without conflicting with each other cultivates a rich and supple mind and leads to the charm of a city. Also, in this era, when it is easy for us to shift among the layers of different realities thanks to technologies such as computers, mobile phones and the Internet, we are beginning to realize that even we ourselves are layers of various different “selves”. That likely leads to a supple sense of reality adequate for this new era. Media Art Festival in Kyoto introduces a wide range of media art work which is based on new ideas and expressions that came into being enabled by the development of technology and which, on the contrary, reminds us of the things that have become needless and forgotten due to the development of technology. The exhibition gives us the opportunity, through experiencing these works, to think about today’s media art and our way of being.



京都芸術センター

2011.11.11 fri - 11.23 wed 10:00-20:00
会期中無休 入場無料
604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下山伏山町 546-2

京都芸術センターでは「パラレルワールド」をテーマに、クワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》など、これまでの文化庁メディア芸術祭受賞作を中心として、元小学校の会場を活かし全館展示します。また、受賞作以外にも八谷和彦《視聴覚交換マシン》、土佐尚子《Sansui Ink Painting》など、メディア芸術の多様性、表現の豊かさを体験できる作品を展示。「ルネサンス—京都・映像・メディアアート」展を同時開催することで京都が育んできたメディア芸術の現在、その独自性と先駆性を展覧します。

出品作家

クワクポリョウタ | 田中耕一郎 | 児玉裕一 | 茂出木龍太 | 左居種 | SHIMURABROS. | 八谷和彦 | 土佐尚子

出品作品について

クワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》
平成22年度(第14回)文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞
光線が織えられた鉄道模型が、床に並べられた日用品の間をゆっくりと移動しながらその影を映し出し、部屋の壁や床、天井に映し出されたモノの影は、電車から見ている風景のように移り変わりながら観者を包み込む。没入・鳥瞰、既視感・未視感といった、相反する体験を交互に繰り返す映像作品。京都芸術センター館内において、異空間ともいえるホワイテューブのギャラリを生かして展示されるクワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》は、感覚の錯乱ともいえる、パラレルな感覚を体験させる。

SHIMURABROS. (SEKILALA)

平成21年度(第13回)文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞
高度な仮想現実技術で結びついた家族の物語。主人公である父親は、仮想現実でしか家族と接することができない状況に陥れを感じ、生きているという実感や人との関わりが損なわれている。そんなある日、生きたままの動物で出来た家具(バイオフィニチャー)と出会うところから、彼の欲求が奇妙な形をとって表面化し始め、物語は混沌とした悲喜劇へと滑解してゆく。科学技術の発展によって容れ続けられる生の感覚を通じて新たな実存の可能性を探る。

イベント情報

八谷和彦《視聴覚交換マシン》体験会
※各回1時間半程度を予定。 ※申し込み不要、先着順
場所 || 京都芸術センター ミーティングルーム 2
日時 || 会期中の土・日・祝 14:00-、17:00-
※ 11.11.fri のみ 16:00-

アーティストトーク

※申し込み不要、先着順
場所 || 京都芸術センター フリースペース
日時 || 11.11.fri 18:00-
ゲスト || 京都芸術センター会場の出品作家
司会 || 小林昌廣 | 情報科学芸術大学院大学教授、京都芸術センター運営委員

文化庁メディア芸術祭京都展プロジェクトチーム・トークイベント

※申し込み不要、先着順
場所 || 京都芸術センター フリースペース
日時 || 11.20.sun 14:00-
ゲスト || 文化庁メディア芸術祭京都展プロジェクトチーム
司会 || 小林昌廣 | 情報科学芸術大学院大学教授、京都芸術センター運営委員

KYOTO ART CENTER

OPEN: 2011.11.11 fri - 11.23 wed 10:00-20:00
ADMISSION: Free
546-2 Yamafushiyama-cho, Nakagyo-ku, Kyoto

Kyoto Art Center introduces the Japan Media Art Festival’s award winning works under the theme of “Parallel World”, including *The Tenth Sentiment* by Ryota Kuwakubo. Maximizing the potential use of space at a former elementary school building, the show also introduces works that exhibit the diversity and profundity of media art, such as *InterDis-Communication Machine* by Kazuhiko Hachiya and *Sansui Ink Painting* by Naoko Tosa. By co-hosting “Renaissance-Kyoto, Image and Media art”, the exhibition expresses the originality and pioneering spirit of today’s media art, that Kyoto has nurtured.



クワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》 ©2010 クワクポリョウタ
撮影: 木原恵三 写真提供: NTTインターコミュニケーションセンター (ICC)



SHIMURABROS. (SEKILALA) Courtesy of the artists and Taka Ishii Gallery



八谷和彦《視聴覚交換マシン》 撮影: 黒川未来丸



土佐尚子《Sansui Ink Painting》 <http://bit.ly/1aTuc8>